

令和 4 年度
ヒューマンケアリングセンター活動報告書



目 次

1．ヒューマンケアリングセンターの活動	
1) 活動目的	3
2) 活動目標	3
2．活動実績	
1) 臨床看護職連携部門	3
2) 地域連携部門	3
3) 学生ボランティア部門	4
4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進	4
5) 広報活動	4
3．全体評価	
1) 事業	4
2) 次年度への課題	4
4．各事業の報告	
1) 臨床看護職連携部門の活動	
看護職のためのチームづくり研修会	5
中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会	6
臨床指導者研修会	7
認定看護師教育課程	8
2) 地域連携部門の活動	
日本赤十字広島看護大学 公開講座	9
阿品台いきいき健康づくり	10
夢あじなプロジェクト	11
阿品地区救急法講習会	11
健康フェスタ in フジグランナタリー	12
あいプラザまつり	12
認知症サポーター養成講座	15
3) 学生ボランティア部門の活動	
ボランティア活動の推進.....	14
ボランティア活動の実績.....	15
4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進	
認知症高齢者支援会議	16

廿日市市学校防災プロジェクト.....	1 7
中高生対象出前授業	1 8
5) 学内教員の活動報告	
研修参加報告	1 9
受賞等	2 0
社会活動	2 1

1. ヒューマンケアリングセンターの活動

1) 活動目的

本学の教育・研究機能を学外に開き、社会と連携・協働しながら、地域の保健医療福祉に貢献する教育機関として活用できる生涯学習拠点として活動する。

2) 活動目標

- (1) 赤十字施設および実習施設など地域の保健医療施設と連携・協働し、専門職を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (2) 廿日市市との包括協定を活かして、地域住民を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (3) 教育ネットワーク中国・社会福祉協議会など外部関係団体との連携を図り、地域住民のニーズにあった生涯学習の機会を提供する。
- (4) 地域支援活動を効果的・効率的に学内外へ広報する。
- (5) 自治体と連携・協働し、地域住民の健康の保持増進に寄与するための健康学習と支援体制を推進する。
- (6) 地域支援活動の成果を評価し、活性化を図る。

2. 活動実績

1) 臨床看護職連携部門

開催時期	開催内容	開催方法	参加人数
6月～12月	臨床指導者研修会	対面、一部オンライン	延 151 人
11月13日	看護職のためのチームづくり研修会	オンライン	105 人
1月28日	中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会	オンライン	30 人

2) 地域連携部門

開催時期	開催内容	開催場所	参加人数
11月5日	日本赤十字広島看護大学 公開講座 in 生涯学習フェスティバル	はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ	47 人
2月14日	阿品台いきいき健康づくり	阿品台市民センター	22 人
10月29日	阿品地区救急法講習会	阿品市民センター	32 人
11月6日	あいプラザまつり	山崎本社みんなのあいプラザ	75 人
1月30日	認知症サポーター養成講座	日本赤十字広島看護大学	10 人

健康フェスタ in フジグランナタリーは、中止となった。

3) 学生ボランティア部門

ヒューマンケアリングセンターの機能強化として、令和4年(2022)年度から、学生の

ボランティア活動や医療福祉関係のアルバイト、セミナーやシンポジウムへの参加などの募集をセンターが統括して組織的に実施することとした。

4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進

教育ネットワーク中国のシステムを活用し、看護系大学として他大学にないテーマの提供と教育研究成果の還元を行った。

また、廿日市市社会福祉協議会主催の認知症高齢者支援会議へ出席し、また学生を対象とした認知症サポーター養成講座を実施することで、認知症に対する学習機会を確保した。

5) 広報活動

大学ホームページに年間計画を公開し、各事業の募集期間中は募集記事を掲載した。

各事業は、参加を募集するチラシを、募集対象に合わせて広く配布した。専門職対象の場合は、西日本の医療施設や看護系大学と中心に配布し、地域住民対象の場合は主に廿日市市内の市民センターに配布した。

また、広島県教育委員会「まなびナビひろしま」及び一般社団法人「教育ネットワーク中国」のホームページに掲載を依頼してチラシが配布されていない施設や地域からの参加を募った。

学生へのボランティア募集について、本学ホームページで団体等からの応募を募った。

3. 全体評価

1) 事業

令和3(2021)年度に続き、コロナ禍において、開催時期や方法を模索し、開催方法を一部の事業は対面形式に戻したものの、状況に応じてオンラインに変更し、参加が得られるよう企画を練り、一定の成果を得ることができた。

令和4(2022)年度から、ヒューマンケアリングセンターの機能を臨床看護職連携部門、地域連携部門、学生ボランティア部門の3部門構成として、機能の強化に取り組んだ。

臨床看護職連携部門では、リカレント教育として位置付けられた臨床指導者研修会は、参加者が多く、全課程修了者には、「修了証書」を発行することができた。

学生ボランティア部門は、学生が参加しやすくなるように、ボランティア情報の発信、登録、報告までをシステム化することにより、ボランティア参加者が増加した。

令和5(2023)年度にヒューマンケアリングセンターのリニューアルキックオフに向けて、これまでの事業の運営体制の見直しと今後一層、地域社会との連携や住民の健康増進に寄与するための準備を行った。

2) 次年度への課題

オンライン開催における利点やノウハウを得ることができ、受講者アンケート調査においても参加時間や場所移動を伴わないオンライン開催は好評であった。次年度に向けて、専門職対象の研修会等については、リカレント教育としての位置づけを明確にし、修了証の発行など体制を整備する。さらに、地域連携の強化を図り、知の拠点としての大学の役割を果たせるように検討する。

4. 各事業の報告

1) 臨床看護職連携部門の活動

看護職のためのチームづくり研修会

<事業評価>

令和3(2021)年度に続き、感染予防対策の観点から、「コロナ時代の新人看護師の成長を支えるOJTのコツ」というテーマで、Zoom ミーティングを用いたオンライン研修会を実施した。新人教育への関心は高く、105名の参加となった。最も多い参加者の年代は、40代以上で85.2%、職位は、中間管理職(看護師長、主任、係長、副師長等)が、67.0%であった。

研修会後のアンケートでは、参加者の多くが「研修会は参考になったか」「現場で役立つ部分があったか」という質問に対して高い評価をつけており、満足度は高かった。「講師の具体例の提示や丁寧な説明がわかりやすかった」という意見が多く、中でもZ世代の特性についての理解が深まり、「新人・若手に対する現場での関わり方や指導に活かしたい」という意見も多く見られた。また、臨床での新人教育に悩み、手探りで関わっている中で、研修を通して、「自分たちのやり方でよかったということ」を再認識する機会となった」という意見もあった。

運営面に関する意見として、「オンライン講座でよかった」とする評価が多い一方で、少数ではあるものの参加者からの質問の受け方や資料配布等についての指摘があり、運営面での課題が見いだせた。

<今後の課題>

研修会のテーマへの関心が高く、募集定員数80名に対して早い時期から多くの申し込みがあったため、期日前に募集を締め切ることとなった。また、施設内で参集しての参加希望があったことから、結果としては募集人数の80名よりも多い105名の参加となった。80名の定員は、Zoom ミーティングの利用のために生じた人数制限である。遠方であっても参加が簡便であるオンライン研修会のニーズは今後も高まることが予測されるため、多くの希望者が参加できるように、より参加しやすいZoom ビデオウェビナーなどの導入や運営方法の検討が必要である。

看護職のためのチームづくり研修会

コロナ時代の 新人看護師の成長を支える OJTのコツ



2022年11月13日(日) 13時~16時

ZOOMによるオンライン研修会

講師

西田 朋子 氏

日本赤十字看護大学 看護教育学准教授 看護学博士
略歴: 虎の門病院看護師(院内教育担当)、日本赤十字看護大学助手、同講師を経て2015年より現職。
現任教育全般、特に新人看護師の教育支援を主要な研究テーマとされ、幅広く活躍されています。



内容

コロナ世代と比べ、臨床実習が少ない新人看護師の成長には、臨床におけるOJTの在り方がより重要となってきます。本書「新人看護師の成長を支えるOJT」で、成人学習の理論をもとにOJTの実践的な内容を展開されている講師の西田朋子氏による研修会を通じ、コロナ禍におけるOJTの在り方について、課題も踏まえながら考えます。

定員

先着 80名

対象: 看護職、保健・医療専門職、看護系教員など

会費

1,000円

申込・支払方法

右のQRコードまたはE-mail(human@jrchn.ac.jp)にてお申し込み下さい。

- E-mailでお申込の際は、次の内容をご入力の上、ご送信下さい。
件名: チーム作り研修会申し込み
本文: 氏名、連絡用メールアドレス、所属施設名、電話番号
※ 資料等、郵送の大きいものを送付する場合がありますので、郵便できるアドレスをお願いします
- 申込期限: 2022年 11月 7日(月)
申込は、下記窓口へのお申込をもって完了と致します。
参加者の皆様には、事前にオンライン研修会参加用のURLを、連絡用メールアドレス宛に送付します。
なお、はじめてZOOMをご利用される場合には、アプリの事前インストールが必要です。
- お振込先: 広島銀行 廿日市ニュータウン支店(店番号058) 普通預金 3036978
日本赤十字広島看護大学 学長 田村由典
ニッポンセイジエフエフビルディング5F 502号室 タムラユキ
※ 振込の際、振込書またはATMのご振込人の欄の名称の上に番号003をご記入ください。
※ インターネット振込みも可能です。

主催: 日本赤十字広島看護大学 ビューマンケアリングセンター
Tel: 0829-20-2806 E-mail: human@jrchn.ac.jp



中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会

< 事業評価 >

令和4(2022)年度は、LGBTQの基礎知識や医療現場においてLGBTQ当事者が置かれている状況について学び、看護ができることは何かを考えることを目的に、「LGBTQの基礎知識および看護職が直面する課題と対応」というテーマでオンライン研修会を開催した。30名の参加者のうち、40歳代以上が8割以上で、主な職種が看護職と教員であった。

研修後のアンケートより、回答者全員(28名)から「研修会は参考になった」という評価を得て、「新しい知識を得られた、知識をアップデートできた」、「個別のニーズを考え、病院に通いやすい環境を作っていくようにサポートしたい。」などの感想が聞かれた。

運営では、申し込み時に、テーマに関するこれまでの経験や質問を受け付け、事前に講師と参加者のニーズを共有し、その情報を講演内容に反映して頂くことができた。さらに講演後、事前の質問に対して追加で解説をして頂き、その場でも質問を受け付けて、学びたかったことや疑問を残さないようにした。

以上より、本研修会の目的に挙げた内容を学ぶことができ、LGBTQ当事者に対する今後の個人の行動や組織の対応について考えられたという意見から、目的は概ね達成したと評価する。また、これまで学んだことのないテーマだったという意見も多く、本事業の目的も達成したと評価する。

< 今後の課題 >

今年度は、参加者の応募が少なく、募集期間を延長し広報を繰り返す必要があった。本テーマへの関心度の低さや臨床における課題として捉えられていない現状が推察された。しかし、研修後の感想には、「考え方が変わった、もっと学びたい、たくさんの方に課題を知っていただきたい」といった意見が聞かれた。今後も、看護職に対する継続教育の場となるよう、社会情勢や看護職のニーズを反映し、興味を持っていただける研修会を企画することが課題である。



令和4年度 中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会

LGBTQの基礎知識および看護職が直面する課題と対応

医療現場においてLGBTQ当事者が置かれている状況について学び、より良い看護と一緒に考えましょう。

講師 藤井ひろみ氏
大手前大学国際看護学部 教授



『学校・病院で必ず役立つLGBTサポートブック』など著書多数。多様なセクシュアリティへの支援や、LGBTQ+など性的マイノリティ、SOGI(性的指向・性自認)に関する看護研究を先駆的にを行い、国内外でエビデンスに基づいた社会貢献活動に取り組んでいらっしゃいます。

 **令和5年1月28日(土)**
13時30分～15時30分(13時受付開始)

 **オンライン開催(ZOOMによるLIVE配信)**

【対 象】看護職
【参加費】1,000円
【申込み期限】令和5年1月20日(金)
【申込み方法】QRコードまたはEmail(human@jrchn.ac.jp)
・Emailでお申し込みの方は、次の内容を記載して送付して下さい。
件名:看護継続教育研修会
本文:①氏名(フリガナ)、②所属施設名、③URL送付先メールアドレス
④電話番号、⑤職種(看護師・保健師・助産師・教員・その他)
・ご入金頂いた方に、ZOOMのURLをご案内いたします。申込み期限内にお振込み下さい。
【振込先】広島銀行 廿日市ニュータウン支店(店番号058) 普通預金 3036978
日本赤十字広島看護大学 学長 田村由美
〒731-8585 広島県廿日市ニュータウン2-1-1
・振込の際、振込書またはATMのご依頼人の欄の名前の上に番号 003 をご記入下さい。
・インターネット振込も可能です。
・ご入金後の返金は出来かねます。ご了承下さい。



【主催】日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター運営委員会
Tel: 0829-20-2806 (代表) Email: human@jrchn.ac.jp

臨床指導者研修会-ポストコロナ時代の看護教育を学ぼう-

< 事業評価 >

本学は、保健師課程、助産師課程の実習を含め、約 50 施設に実習の協力をいただいている。令和 4 (2022) 年度から「臨床看護師連携部門」の運営として位置付け、臨地実習指導者の指導力向上や新人教育の質向上に寄与することを目的に、実施している。

令和 4 (2022) 年度は、本学での対面研修を基本としたが、コロナ禍であり、所属施設の状況に応じて、Zoom によるオンラインでも参加可能とした。臨床実習指導役割のある人だけでなく、新人や後輩育成に携わる人などが、第 1 回 31 名、第 2 回 45 名、第 4 回 39 名、第 5 回 36 名、延べ 151 名が受講し、27 名が全課程を修了し、修了証書を授与した。

受講終了時のアンケートでは、本研修会全課程について、90%が満足と回答された。満足の理由については「学生、新人指導に必要な学習内容が網羅されていた」、「現場で抱えている実習の疑問のヒントや答えになる充実した内容だった」、「リフレクションの SEA 法や看護倫理のカード式事例検討法は実際に行って楽しかった」という評価を得た。



日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター

臨床指導者研修会			
共に創るポストコロナ時代の看護実習教育			
月日	時間	内容	担当講師
第1回 6月16日(木)	9:00-10:30	開講式/オリエンテーション 絵本で学ぶヒューマンケアリング	企画委員 矢野博史(本学教授)
	10:40-12:10	教育原理-教育という自明性の再検討	矢野博史(本学教授)
	13:00-14:30	教育方法-教授と学習の基礎理論	矢野博史(本学教授)
	14:40-16:10	社会の変化に対応する高等教育としての看護 基礎教育と看護学実習	村田由香(本学教授)
第2回 7月28日(木)	9:00-12:00	リフレクションの概念	田村由美(本学教授)
	13:00-14:30	対人関係論	戸村道子(本学教授)
	14:40-16:10	実習指導の実際 実習指導計画立案	村田由香(本学教授)
第3回 8~9月	自施設における臨床指導者実習 学習ポートフォリオの作成(コーネル式)		自己学習
第4回 11月10日(木)	9:00-12:00	実習指導のリフレクション	企画委員
	13:00-14:30	看護理論 看護の概念、看護の知と実習指導	山村美枝(本学教授)
	14:40-16:10	看護倫理 実習指導における倫理的課題	川西美佐(本学教授)
第5回 12月15日(木)	9:00-12:00	発達障害及びその特性を持つ学生の理解と実 習指導	広島産業保健総合支援 センター産業保健相談員 西村浩二氏
	13:00-14:30	教育心理-看護学生及び学習者の心理	丸山愛子(本学准教授)
	14:40-16:10	実習指導からの学びの共有/ディスカッション、 課題と今後のChallenge 修了式/修了証書授与	企画委員
対象施設: 中四国赤十字病院、本学実習施設、希望施設 参加費: 1人当たり1日につき5,000円、全課程20,000円、1コマの場合2,000円 感染状況により来校できない場合は、オンライン対応とします。			
お問い合わせ 日本赤十字広島看護大学 TEL:0829-20-2850 FAX:0829-20-2801			

< 今後の課題 >

本研修会では、授業担当の講師だけでなく、複数の教員が企画委員として、グループワークにファシリテーターとして参加しており、教員のファシリテーターとしてのスキル向上に努める。



SEA 法を用いたリフレクション



第 5 回講義の様子

認定看護師教育課程は、令和4年度～6年度まで休講となった。

<事業評価>

「在宅模擬試験」は、模擬試験を各自自宅で受験してもらい、認定審査に向けての学修課題を見出すことを目的として実施した。各自、自分の学修課題を明らかにすることができていた。

8

2) 地域連携部門の活動

日本赤十字広島看護大学公開講座

<事業評価>

「楽しく身につける英語のスキル」というテーマで講演を行った。廿日市市と共催して「生涯学習フェスティバル」の一環として開催したことで来場のしやすさがあり、参加者は50名近くとなった。アンケート回収率は38%であったが、30歳代1名、40歳代1名、50歳代4名、60歳代3名、70歳代7名、80歳代2名の参加があり、幅広い年代に興味のあるテーマであったことが伺えた。参加者からは「とても勉強になりました！楽しい講義でした」、「もう少し一緒にスマホ操作などしてやってみたかった」といった声が聞かれた。地域住民の生活の質向上として、語学を学ぶ喜びに触れ直接学ぶ機会を設けることができ、目的は概ね達成することができた。

<今後の課題>

今回はWi-fi環境がなかったため、来場者が同時にアプリを使用することができなかった。来場者の反応から、アプリの紹介等がある場合は、一緒に体験する機会を設けることで満足度が高まると考えられたため、今後はネット環境についても検討が必要である。



令和4年度
日本赤十字広島看護大学公開講座

楽しく身につける 英語のスキル in生涯学習フェスティバル



講師
Simon Capper
サイモン・キャパー
日本赤十字広島看護大学
基礎人間科学領域 教授

趣味として楽しみながら、自身で英語を身につける！
気軽に使えるスマホアプリ[Quizlet（クイズレット）]などを活用した、
新しい学びの方法を紹介します！
当日、スマートフォンもしくはタブレットをお持ちの方はご持参下さい。
スマートフォンやタブレット以外のツール活用についてもお話します。
英語を学ぶ初心者の方から一度挫折した方等、多くの方のご参加をお待ち
しています！

この講座は日本語で行います

日程 2022年11月5日(土)
13:30~14:30
開場13:00

場所 はつかいち文化ホール
ウッドワンさくらびあ小ホール
廿日市市下平良一丁目11-1

参加費 無料

対象 どなたでも

●参加申し込みは不要です。
●当日会場までお越しください。
●新型コロナウイルス感染予防対策にご協力ください。
●新型コロナウイルス感染状況により、予定が変更になる場合があります。

主催：日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター
共催：廿日市市・廿日市市教育委員会

お問合せ
日本赤十字広島看護大学
ヒューマンケアリングセンター
Tel: 0829-20-2806
Email: human@jrchcn.ac.jp

地域交流の積極的参加

阿品台いきいきプロジェクト後継事業において、前事業で培われた地域住民との連携が維持されている。また、廿日市市で開催される廿日市市生涯学習フェスティバル、あいプラザまつり、健康フェスタ in フジグランナタリーに例年出展しているが、新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止となっていた。令和4(2022)年度は、廿日市市生涯学習フェスティバル、あいプラザまつりが開催され、3年ぶりの開催に、市民とともに交流を深めることができた。また、廿日市市や廿日市市社会福祉協議会が中心となって行っている学生ボランティア養成事業や認知症サポーター養成講座、阿品地区の救急法講習会も開催し、住民の活気が戻ってきた。地域における本学の人的資源を活かした地域連携活動をさらに強化していきたい。

阿品台いきいきプロジェクト後継事業

< 事業評価 >

令和4(2022)年度も阿品台市民センターと共催し、本学の教員が健康づくりに関連した事業を行った。テーマを「フレイル予防は食べることから」とし、高齢者にとって予防が必要なフレイルについて体系的に理解し、自分のこれまでの食生活を振り返り、特にたんぱく質のとり方を振り返り、食生活の見直しを行う内容とした。アンケートから、参加者の食行動の振り返りができた、食生活の改善点がわかった、フレイル予防のために外出に心がけたいなどの感想が聞かれた。高齢社会への対応を地域で考える機会にもなった。コロナ禍の中、人数制限を行い22名の参加があった。学生のボランティアが3名参加し、血圧測定をすることで参加者との交流ができた。



いいき健康づくり講座
フレイル予防
～元気づくりは食べることから～

参加費 無料
(先着30名様)

- ・最近おっくうになってきた方
- ・シャキッとしたいと思われる方
- ・元気で暮らしたいと思われる方

元気になるためには、
どんな食事をするといいのか
ポイントをつかみましょう！

日程 2023年2月14日(火)
時間 13時30分～15時
場所 阿品台市民センター大研修室
講師 水馬 朋子(日本赤十字広島看護大学)

申込み方法:別紙申込用紙にお名前、住所、電話番号をご記入の上、市民センターへお申込みください。

お問い合わせ **日本赤十字広島看護大学** TEL 0829-20-2806
阿品台市民センター TEL 0829-39-4338

主催:日本赤十字広島看護大学 共催:阿品台市民センター

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止になる場合もあります。

< 今後の課題 >

令和3(2021)年度度の参加者に対して研修テーマを募集したなかから、希望の多かったテーマで実施したが、今年度は、参加申込みが前年に比べて少なかったため、次年度は、阿品台市民センターでの電話申込み受付も可能とするなど参加勧奨に努めることとする。今後も、地域住民のニーズに応じたテーマを取り入れながら、阿品台市民センターと協働して地域住民の健康管理・保持増進に係る事業を継続する。



夢あじなプロジェクト

< 事業評価 >

夢あじなプロジェクトは、廿日市市阿品台コミュニティとの協働プロジェクトであり、阿品台地区における健康増進や維持に着目し、様々な取り組みを行っている。

これまでの事業本拠地が阿品台市民センターに移転したため、事業内容に制限があるが、住民との交流の場として、地域活動を工夫して継続実施している。

また、令和4(2022)年度は、1年生の「看護の基盤実習」の実習施設として位置づけたり、公衆衛生看護学実習の場として、さらにラ・ソース大学の留学生の事業参加に活用するなど、大学教育活動に積極的に協力していただいた。学生は、体験を通して活動目的などについて理解を深め、地域組織活動の意義を理解することができた。

< 今後の課題 >

今後も本学と廿日市市阿品台のコミュニティと協働しながら、取り組んだ活動の報告や健康に関連した課題について共有する場を積極的に設け、セルフケアとソーシャルキャピタル醸成(信頼ある見守り)に取り組んでいきたい。また、世代の異なる住民と学生が交流を積極的に図ることで地域の活性化等にもつなげていきたい。

阿品地区救急法講習会

< 事業評価 >

10月29日に阿品地区コミュニティをすすめる会が企画する防災訓練の一貫として、一次救命処置(心肺蘇生、AEDを用いた除細動)の体験ブースを担当した。赤十字救急法の指導員資格をもつ教員がデモンストレーションを行った後、参加者全員に心肺蘇生とAEDを用いた除細動を体験していただいた。参加者全員が一次救命処置の講習を受けた経験があるものの、うる覚えだったことから、「思い出す良い機会になりました」という反応が多かった。また、「この地域ではどこにAEDがありますか?」など、実際の状況をイメージした具体的な質問が多く、住民の方々の災害への意識の高さが伺えた。

< 今後の課題 >

60分間の時間配分としては、デモンストレーションが約20分間、2名の実施に約20分間とすると、20分くらい時間が余った。一次救命処置だけでなく、保温や搬送、気道異物除去、回復体位等、さらに2つくらいの技術を実施する時間はあった。内容と時間配分については、今後検討していく必要がある。次回は、地域のAEDマップを持参し、Qマスクを配布することで、より満足度が高まり今後の実践への意識づけとなると考える。



健康フェスタ in フジグランナタリー

< 事業評価 >

令和 3(2021)年度に引き続き、令和 4(2022)度も COVID-19 流行に伴い、中止となった。

< 今後の課題 >

地域住民のニーズと社会情勢を考慮した内容を検討していく。

あいプラザまつり

< 事業評価 >

あいプラザまつりにて「今日からできる健康づくり」として、「フレイルのチェック」、「フレイル予防体操」、「血圧測定と健康相談」、「育児相談、抱っこ体験」、「健康づくりグループの活動紹介」を行った。参加者は、延べ 75 名で、高齢者が多く「育児相談、抱っこ体験」の参加者は少なかった。参加者の反応としては、フレイルに関心が高くほとんどの方が一緒に体操を経験されるなど好評で、健康づくりに関心をもつ機会となっていた。本学の学生ボランティアも多数参加し、来場者と交流を深めることができた。

また、令和 4(2022)年度前期「はつかいちさくら賞」を受賞の「健康づくりグループ」の皆さんが、長年にわたり本学を拠点として実践されている日頃の活動について紹介された。

< 今後の課題 >

運営に関して、断続的に来場があったため、スタッフやボランティアの休憩時間を確保できなかったが、適宜、水分摂取等の休憩を確保すればよかった。また、内容が複数であるのに対し会場が狭く、体操の際の荷物の置き場所やスペース確保など随時調整することが必要となった。

対象者の年齢層として高齢者が多く、育児に関する需要は少なかったため、今後の企画内容を成人限定にするか検討の必要がある。



2022年 あいプラザまつり

今日からできる健康づくり

日本赤十字広島看護大学
HCC委員会

2022年11月6日(日)
9:30~13:00



日頃から行うことができる
健康づくりについて一緒に
考えてみましょう



内容

- 赤ちゃんの人形を用いた育児体験
赤ちゃん人形で抱っこの仕方やおむつの替え方などを体験していただけます。
- 血圧測定と健康相談
血圧測定をさせていただき、その結果などから健康づくりの相談をご利用ください。
- フレイルチェックと介護予防
ふくらはぎの周囲径の計測等やフレイルチェックを行い、介護予防考えてみましょう。

日本赤十字広島看護大学の学生と教員が、育児体験や血圧測定、フレイルチェックをさせていただきます。
みなさまの健康づくりのお手伝いができればと思っています。
気軽にご参加ください。



認知症サポーター養成講座

< 事業評価 >

認知症サポーター養成講座は、認知症を正しく理解し、だれもが安心して暮らせる街づくりのために、ボランティアの視点から支援できるようになるという目的で本学 1 年生中心に全学生も対象として開催した。学務ポータル S 等で参加を呼びかけた結果、本年度の参加者は学生 3 名、教員 5 名、職員 2 名、合計 10 名であった。今年度は、時間割の補講調整をした結果、授業が開講されない日になったため、1 年生の参加がほとんどなかった。講座は、講師として廿日市市キャラバン・メイトのメンバーを講師に迎え、内容は「認知症養成講座とは 認知症サポーターの活動内容 認知症の基礎知識 認知症の人の内的世界を理解する事例演習、 アンケート記入」であった。アンケートでは、「認知症と一概に言ってもいろいろ種類があり、ひとまとめにはできないと思った。」「1 人の人としてきちんとケアをしていかなければいけないと思った。」「困っている様子の高齢者の方がいたら、様子を見て声をかけてみるようにする。」「認知症を理解できる人を増やしていく」など知識を深めかつ意欲的な感想であった。参加者全員に対し、認知症サポーターの印であるオレンジリングが授与され、「認知症サポーターカード」を交付した。講座への参加によって、認知症への理解を深め、実際の地域での支援へと繋げてほしいという当初の目的は達成されたといえる。

< 今後の課題 >

1 年生を主たる対象としているため、授業開講期間を考慮した時期に開催し、より多くの学生・院生・教職員が参加できる開催日時を調整する必要がある。また、コロナ禍においても参加しやすいよう、複数の手段での周知とハイブリッドなどの実施方法を工夫して、参加を促していきたい。

認知症サポーター養成講座

～認知症を学び 地域で支えよう～



日時：2023年1月30日（月）14：40～16：10

場所：102講義室

対象：1年生・受講希望の方

講師：廿日市市認知症サポーター

田中 薫氏

内容：① 認知症とは

② 認知症の予防と接し方のポイント

③ 認知症サポーターの役割と活動

など

主催：廿日市市社会福祉協議会

共催：日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリング
センター

3) 学生ボランティア部門の活動

学生へのボランティア活動の推進

令和4(2022)年度から、学生ボランティアの総合窓口として学外のニーズと学生のマッチングを組織的に行うことを目的に活動を開始した。

ヒューマンケアリングセンターが主に廿日市市や、市内の団体と連携し、ボランティア募集の告知を行い、活動用のユニフォームを支給するなど学生の活動をバックアップした。募集の方法は、内容に応じて、学内でとりまとめて団体等への申し込みを実施できるよう、学生からの応募用入力フォームや学内での募集サイトを作成するなど工夫し、学生の応募の反応が早まった。

参加した学生は、ボランティア活動参加後に学びや気づきなどをヒューマンケアリングセンターに報告し、ヒューマンケアリングセンターは、さらなるボランティア活動を奨励するためまた交通費の代替として一律QUOカードを進呈した。

57のボランティア活動の募集のほかに、20の文化情報、保健・福祉・医療介護に関連するの14のアルバイト、12のセミナーの紹介を行った。

学生のボランティア活動の実績

活動日	ボランティア 内容	人数 (人)	学生の感想 (一部抜粋)
令和4年 6月26日	阿品台ウォーキング& 宝探し	2	阿品台コミュニティ主催、地域の参加者の血圧測定などの健康チェックのボランティアを実施した。 2.5 kmのコースを参加者と一緒にウォーキングする途中では、参加者の体調を伺うなど阿品台の地域住民との交流を深めることができた。
6月29日	廿日市市議員との意見 交換会	8	市議会議員4名が来訪され、議員の仕事、政治への関心の持ち方など自由に意見を交わし、選挙・投票に関する意識に変化があった。
7月3日	認知症になっても安ら ぎのある廿日市市をつ くる市民の会	2	スマートフォンの操作を学ぶための研修会にて通信障害が発生する中、他大学高等学校の学生とともに研修会に参加した方々のサポートを行った。「一緒に操作して役に立てたことがうれしかった」など実感が持てた。
8月18日	廿日市市男女共同参画 推進懇話会	1	学生代表として男女共同参画推進懇話会の実施計画の協議に加わった。
6月～7月	100万羽おりづるプロジ ェクト	全学生	少年赤十字創設100周年記念しおりづるを100万羽折る事業に参画し、学内で2,475羽のおりづるを折った。
8月～9月	おりづるをつなげよう ボランティア、ギネス に挑戦	24	日本赤十字社広島県支部が主催した「100万羽おりづるプロジェクト」で県内から集まったおりづるを何キロもつなげていくボランティアに参加し、「最も長い折り紙レイ」のギネス世界記録達成に立ち会った。

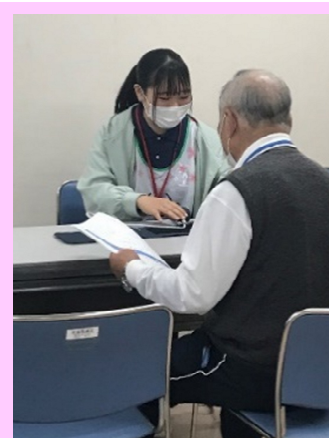
			ひとりの力は小さいが、たくさんの力が集まると大きなものとなることを実感できた。
9月23日	障害児子どもまつり	7	発表会に参加する車いすやバギーの子どもたちの安全を確保するための誘導を行った。障がいがある子どもたちが自分より幼い子に気遣う様子などを目の当たりにし、思いやりの大切さを学んだ。
9月10日、 23日	骨髄バンク推進全国大会 2022 in 広島	1	日頃から骨髄バンクのドナー登録説明員を行っている学生が、クリエイターの方からアイデアの生み出し方を教えていただき、また骨髄バンクや提供方法について学んだことを活かして、ワークショップで他大学の学生と共に骨髄バンクの登録者を増やすための取り組みについて考えを出し合い、1つのアイデアにまとめた。そのアイデアを大会でプレゼンし、発表を実施した内容は、準グランプリを受賞し、ポスター化された。
10月29日	阿品地区防災訓練	5	阿品地区コミュニティをすすめる会が主催し、3年ぶりに開催された。地域の方に対し、一次救命処置をデモンストレーションし、処置の方法を学んでいただく補助をした。
10月29日	サロンにおけるハロウィンイベント	4	大野二地区にあるサロンにおいて、ハロウィンのおばけやしきイベントの受付やイベントの補助を行った。
11月3日	HIC 世界体験デー	1	異文化体験・国際交流ができる「HIC 世界体験デー」において、外国の歌・踊り・楽器の披露、ワークショップやゲームなどイベントのお手伝いを行った。
11月5日	防災ツアーボランティア	4	四季が丘地区コミュニティづくり協議会主催で防災訓練が行われた。応急手当のブースを担当し救急法の復習にもなり、自分なりにレベルアップも感じられた。
11月6日	あいプラザまつり	24	廿日市市主催のまつりが3年ぶりに開催された。医師会をはじめ18団体が健康に関するブースを出展し、学生はブースの補助や受付などを担当した。学生からは、健康のことだけではなく、育児相談、歯科相談、子供から大人まで誰もが楽しめるようなニュースポーツといった様々な企画があり運営側から地域の方々と触れ合えたので楽しみながら参加できた。
11月6日	スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム	5	知的障害がある方のオリンピックのバスケット部門に参加した。全員自ら積極的に行動されていて障害の有無に関係なくスポーツは楽しめるものだと感じた。
11月6日	認知症カフェ ncafe ひまわりボランティア	6	廿日市野村病院のデイケアサービスでイベントの手伝いなどを行った。初めてボランティアに参加した学生は、次は自主的に話しかけていこうと決めている。

			た。
11月27日	宮ぞの防災フェス	4	宮園自主防災会が主催する防災訓練が行われた。大規模災害を想定し、宮園小学校に集合し、自ら何かできることはないかと運営側に尋ね、主体的に小さな子どもたちに応急手当の方法を教えるなど活動した。
11月	夢あじなサロンでの活動	2	大学に最も近い阿品台市民センターで毎週開催されている夢あじなサロンにおいては、体操を一緒に行ったり、参加者の昼食配膳の手伝いなどを実施した。
12月	すくすくサロンでの活動	2	大学に最も近い阿品台市民センターで開催されている幼児と母親のサロンの準備や子供の遊び相手をするなどの活動を行った。子どもと触れ合う時は自分自身も子どもの立場にたって同じように過ごすことが大事だと感じました。
12月10日	親子ふれあいウォーキング大会	10	コロナ禍の中で地域住民による地域の活動を行うことができることが当たり前でないことを学びました。また、地域で活動を行うことは、地域の活動に家族で参加することで普段しないような会話をする機会となり、家族のつながりが深くなる効果をもたらすこと、見知らぬ家族同士のつながりが生まれ、将来的に互助につながるきっかけとなることができるものであると分かった。
12月11日	障害者との交流クリスマス会	6	障がい者の交流会としてステージ発表などが行われるクリスマス会に参加し、その積極的な活動から本学学生に対し感謝状を授与された。学生は障害のある方に合った関わり方などを学ぶことができた。
2月4日	学童・生徒・学生諸君による通学路の清掃活動	10	大学が所在する団地において近隣の小学校から大学までの児童生徒学生が清掃活動を行った。
2月11日	G7広島サミット結団式	1	令和5年5月に行われるG7広島サミットにおもてなしボランティアとして参加する学生の結団式が行われた。
2月14日	阿品台いきいき健康づくり講座	3	本学教員が講師となって、地域の方が参加されるフレイル予防の講座の準備やサポートを行った。講座に参加している地域の方々の様子から健康意識について理解することができた。
2月25日	ベビーマッサージ教室	5	本学教員が講師となって開催した山口県岩国市の子育て支援センターにおいて準備や託児の活動を実施した。赤ちゃんが泣き出したときにお母さんがベビーマッサージに参加しやすいよう、赤ちゃんをあやしたりなど自ら率先して動く必要があることを学んだ。
3月5日	n-cafe ひまわりでの活動	4	高齢者の方とお話しする中で、普段は話し相手もないため、寂しいとおっしゃっている方が、ここにきていろいろな人と話すことができている。外に出

			ることができたのもよかった。とおっしゃられていた。月に一回でもこのような場所があることはそういった高齢者にとってとても有意義な時間なのだと感じた。様々な年代の方が参加されていて地域交流の場としても重要な役割を担っていると感じた。
3月	骨髄バンクのドナー登録説明	4	以前から参加していた学生の申し出により、広く学生に呼びかけ、献血ルームで実施された骨髄バンクへのドナー登録説明会の説明員として活動した。
3月12日	第14回ハツラツ市民ウォーキング大会 in みやじま	7	廿日市市が宮島において350名参加のウォーキング大会を実施するにあたり、コースの見守りなどを実施した。



「障害者との交流クリスマス会」でボランティア活動に対する感謝状を授与された



「あいプラザまつり」での健康相談受付の様子



100万羽折りづるプロジェクト 折りづるをつなげ、ギネス記録に立ち会う

4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進

認知症高齢者支援会議

< 事業評価 >

廿日市市社会福祉協議会主催の会議が隔月で行われている。参加団体は廿日市市(高齢介護課、健康推進課、地域包括支援センター)、廿日市市認知症の人と家族の会、廿日市市大野認知症の人と家族の会、認知症になっても安らぎのある廿日市市をつくる市民の会、廿日市市高齢者支援センター、日本赤十字広島看護大学、老人クラブ連合会、廿日市市社会福祉協議会であり、はいかい SOS ネットワーク、はいかい高齢者家族支援サービス、認知症サポーター養成講座、認知症関連の講演会の企画実施など幅広く活動している。

本学で実施した認知症サポーター養成講座は1年生を主な対象として10名が参加した。認知症サポーター養成講座にはキャラバン・メイトの方を講師に派遣していただき、有意義な学習の機会を得ることができた。

< 今後の課題 >

看護大学の有する人的資源とこの会議の事業とのマッチングを進めていくことが引き続き課題である。過去の事例からすると、学内で開催する認知症サポーター養成講座を受講した学生は、認知症カフェにおけるボランティア活動に参加するなど、一つの経験から積極性が生まれることが多い。

なお、この会議は企画・運営の場ではなく、情報交換の場であり、参加する意義が不明瞭であるため、今後参加する意義を見出す必要がある。

廿日市市学校防災プロジェクト

< 事業評価 >

早稲田大学人間科学学術院との間で「学校防災プロジェクトに関する協定」を締結(令和2年3月22日)したことを契機に、令和3年4月から、「廿日市市学校防災プロジェクト」を設置し、防災教育プログラムについて研究を進めるほか、防災対策における地域貢献について取り組んでいる。

令和4(2022)年度は、廿日市市教育委員会と連携し、廿日市市立の全小学校に対してアンケート調査を行い、防災教育の内容や課題といった廿日市市の小学校の現状についてまとめている。この結果と、令和3(2021)年11月に実施した「廿日市市内児童の防災意識に関する実態調査」で得られた児童の防災意識や地域に対する認識の状況を合わせ、児童への防災教育として看護大学が行うことができる支援について検討する。

< 今後の課題 >

引き続きアンケート等の結果分析を行い、廿日市市における効果的な防災教育の在り方を検討したうえで、教育委員会とも連携し、防災教育の充実に向けた支援を行う。特にアンケートで大学と連携ができそうな事項として挙げっていた、避難所体験やD-MAT・災害支援ナースの講演などについては、実現に向けて出前授業等の事業を検討並びに企画する。

また、中・長期的には廿日市市、地域自主防災組織等と連携した地域住民の防災対策への

地域貢献の方向性についても検討を進める。

中高生対象出前授業

< 事業内容 >

阿品中学校の1年生を対象にして、6月24日（火）に「災害時に中学生としてできることを考える」というテーマで、講義を行った。事前に中学生からの質問事項をもらい、災害が発生した際の避難所の実際を紹介し、避難生活で困ることは何か、それに対して看護がどのような活動をしているのかについて説明をした。また、災害時に起こりやすいケガや病気とその手当てについて、例えば、家の中にある物を使って骨折の手当て等を紹介した。

最後に、中学生の自分たちに避難所の中で何ができるのかを考えてもらい、トイレ等の掃除や救援物資の配布、新聞を作ることが挙げられた。

< 事業評価 >

事前に質問事項をもらっていたので、それらの内容を講義の中に入れたので、興味を持って話を聴いていた。さらに、講義後に質問をする学生もあり、自助・共助の部分で自分たちができることについて考えることができたのではないかと考えられる。

5) 学内教員の活動報告

研修参加報告

「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー #4」に参加して
テーマ 「初任者研修：コーディネーターのミッションを考える」

主催 和歌山大学

日時 令和4年12月10日～11日

場所 北海道文教大学

内容

<基調講演>

・人口5000万人時代に向けての<地域と大学>考(学校法人大阪観光大学理事長・和歌山大学顧問 山本健慈氏)

・大学地域連携コーディネーターの歴史的変遷とミッション(国立大学法人和歌山大学学長補佐/紀伊半島価値創生基幹“Kill-Plus”准教授 西川一弘氏)

これからの大学は、学生が社会とつながり様々な経験を通し学習すること、大学が地域での存在意義をもつことが求められる。それには、大学が社会や地域と連携するとより良い教育・研究が可能になる、大学と地域がつながることで地域・住民が変わるという大学協働論(大学地域共育論)の視点が必要である。地域連携コーディネーターは、大学と地域の相互発展を目指す「“異”を繋ぐ」「変化をプロデュース」「新しい価値を創造する」調整役である。

<グループワーク>

参加者の所属する大学地域連携業務の紹介、ケーススタディを通して、地域連携コーディネーターとしての対応や心構えを学習した。

<本学に活かせる学び>

- ・大学と連携先(地域)との相互理解に努め、信頼関係を構築することで連携が促進する。
- ・大学連携に関する依頼・相談があった場合、大学・学生にとってメリットを考えた上で、大学と連携先(行政、企業、住民など)の双方が成長することができるような取り組みをしていく必要がある。
- ・自学では無理な案件も、他大学なら可能である場合もあるので、周囲の大学全体で対応していく視点をもっておくことも必要である。

受賞等

水馬朋子（2022）.第 27 回ひろしまナイチンゲール賞

学内教員の社会活動

田村由美（2022）. 評議員. 日本赤十字学園.

田村由美（2022）. 理事. 日本私立看護系大学協会.（国際交流委員会委員長）.

田村由美（2022）. 会員校代表 日本看護系大学協議会

田村由美（2022）. 理事. 日本赤十字看護学会.（編集委員会委員長）

田村由美（2022）. 理事. 日本教師学学会.（企画委員会委員.第 24 回年次大会長）

田村由美（2022）. 理事. 放射線被曝者医療国際協力推進協議会.

田村由美（2022）. 理事. 教育ネットワーク中国.

田村由美（2022）. 委員. 廿日市市保健福祉審議会.

田村由美（2022）. 委員. 廿日市市総合計画審議会.

田村由美（2022, 6）. 非常勤講師.「早期体験学習」IPW 講座, 神戸薬科大学, 神戸市.

田村由美（2022, 6）. 講師.「府中地区介護支援専門員連絡協議会記念講演会：多職種連携・協働実践とリフレクション」, 府中地区介護支援専門員連絡協議会, 府中市.

田村由美(2022.7&11). 講師.「リフレクションの概念」「実習指導のリフレクション」日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター 臨床指導者研修会.

田村由美（2022, 7）. 座長. 特別講演 「看護教育の将来：新型コロナウイルスのパンデミックの影響と今後の再考」, 第 23 回日本赤十字看護学会学術集会, 帯広市.

田村由美（2022, 7）. 講師.「訪問看護師マネジメントプログラム：リフレクションとリフレクションにおけるメンターの役割」, 滋賀県看護協会, 草津市.

田村由美（2022, 7）. 講師.「静岡県看護教員継続研修会：看護教員のリフレクション～自己の教育実践から学ぶ」, 静岡県看護協会, 静岡市.

田村由美（2022, 7）. 講師.「令和 4 年度看護教員継続研修会：教育実践に活かすリフレクション～Reflective Teacher」, 奈良県看護協会, 橿原市.

田村由美（2022, 8）. 座長. . どう育む？これからの時代を生きる看護の教育者たち【講演 3】教師教育の視座から看護教育者を考える：看護師養成教育を中心に, 日本看護学教育学会第 32 回学術集会, Web 開催.

田村由美(2022,9). 講師.「看護リフレクション・実践編」広島赤十字・原爆病院看護部研修. 広島市.

田村由美（2022, 10）. 講師. 廿日市市介護支援専門員連絡協議会,「ケアを止めるな！BCP 策定に向けた主任ケアマネの役割」廿日市市.

田村由美（2022, 10）. 講師. 広島県看護協会「看護におけるリフレクション」, 広島市.

田村由美（2022, 11）. 講師. 師長管理研修「リフレクション」, 広島市立広島市民病院, 広島市.

村田由香（2022）. 委員. 廿日市市男女共同参画推進懇話会委員.

村田由香（2022）. 委員. 廿日市市国際化・多文化共生推進懇話会.

村田由香（2022）. 委員. 看護生涯教育・研修センター会議委員長, 広島県看護協会.

村田由香（2022）. 委員. 倫理審査委員会委員長, 広島県看護協会.

村田由香（2022）. 委員. 看護教育カリキュラム委員会, 日本赤十字学園.

村田由香 (2022). 専任査読委員. 日本赤十字看護学会.
 村田由香 (2022). 専任査読委員. 日本看護管理学会
 村田由香 (2022). 評議員. 日本赤十字学園.
 村田由香 (2022). 評議員. 日本看護管理学会.
 村田由香 (2022). 評議員. 日本赤十字看護学会.
 村田由香 (2022). 企画委員. 第 42 回日本看護科学学会学術集会.
 村田由香 (2022). 座長. 第 42 回日本看護科学学会学術集会.
 村田由香 (2022). 講師. 小野田赤十字病院研究指導
 村田由香 (2022). 講師. 認定看護管理者ファーストレベル教育課程 第 1.2 期 組織管理論, 広島県看護協会.
 村田由香 (2022, 8). 講師. リーダーシップ研修 日本赤十字和歌山医療センター.
 村田由香 (2022, 8). 講師. 新人看護職員研修事業 (実地指導者研修) 山口県看護協会, 防府市.
 村田由香 (2022, 8). 講師. リーダーシップ 研修会, 中電病院, 広島市.
 村田由香 (2022, 8). 講師. 認定看護管理者ファーストレベル教育課程, 看護記録, 日本赤十字社幹部看護師研修センター (オンライン).
 村田由香 (2022, 8). 講師. R4 専任教員継続研修 熟達・教務主任研修広島県看護協会
 村田由香 (2022, 8). 講師. 山口県看護協会実地指導者研修会
 村田由香 (2022, 8). 講師. Share & Dialogue 今こそ対話を 10 中堅看護師のリーダーシップを育む教育プログラム. 医学書院, オンラインセミナー.
 村田由香 (2022, 9). 講師. リーダーシップ 研修会, 中電病院, 広島市.
 村田由香 (2022, 10). 講師. リーダーシップ 研修会, 中電病院, 広島市.
 奥村ゆかり (2022, 1-12). 全国助産師教育協議会中国・四国地区長, 全国助産師教育協議会.
 奥村ゆかり (2022, 4-12). 全国助産師教育協議会シミュレーション小委員, 全国助産師教育協議会.
 奥村ゆかり (2022, 1-12). 日本助産学会専任査読者, 日本助産学会.
 奥村ゆかり (2022, 1-12). 日本母性看護学会評議員, 日本母性看護学会.
 奥村ゆかり (2022, 1-8). 保健所疫学調査支援, 西部厚生環境事務所・保健所, 広島県.
 奥村ゆかり (2022, 4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.
 奥村ゆかり (2022, 8-9). 講師. 新人助産師集合研修, 広島県看護協会, 広島市.
 奥村ゆかり (2022, 7-10). 講師. 高校生に対する性教育, 広島県立商業高等学校, 広島市.
 奥村ゆかり (2022, 10). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.
 奥村ゆかり (2022, 11). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立川下中学校, 岩国市.
 戸村道子 (2021, 2). 講師. 精神保健福祉講座, 廿日市市社会福祉協議会, 廿日市市.
 戸村道子 (2021). 委員. こころの健康づくり委員会, 健康はつかいち 21 推進協議会, 廿日市市.
 Capper, S. (2022, 1-12). Member-at-large. Hiroshima Chapter, JALT (The Japan Association for Language Teaching), Hiroshima.
 Capper, S. (2022, 1-12). Adjunct Professor. Hiroshima Shudo University, Hiroshima.
 Capper, S. (2022, 1-12). Executive Director. JANET (Japan Association for Nursing English Teaching), Fukuoka.
 Capper, S. (2022, 1-7). Membership Chair, JANET (Japan Association for Nursing

English Teaching), Fukuoka.

Capper, S. (2022.11). 講師.生涯学習フェスティバル公開講座.廿日市市役所,廿日市市.

矢野博史 (2022). 選挙管理委員長.教育哲学会.

矢野博史 (2022, 6). 講師. 広島大学病院看護部研修会, 広島大学病院, 広島市.

矢野博史 (2021, 9). 講師. 令和3年度山口県新人看護職員研修(教育担当者)研修会, 山口県看護協会, 防府市.

矢野博史 (2022, 9). 講師. 令和4年度広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 広島県看護協会, 広島市.

朝原秀昭 (2022, 4-9). 非常勤講師. 臨床医学概論, 山陽女子短期大学, 廿日市市.

朝原秀昭 (2022). 委員. 認知症高齢者支援会議, あいプラザ, 廿日市市.

朝原秀昭 (2022). 委員長. 認知症初期集中支援チーム検討委員会, 廿日市市役所, 廿日市市.

川西美佐 (2022). 評議員. 日本赤十字看護学会.

川西美佐 (2022). 歴史研究委員. 日本赤十字看護学会歴史研究委員会.

川西美佐 (2022), プロジェクトメンバー. 一般社団法人日本私立看護系大学協会シミュレーション教育教材開発事業プロジェクト.

川西美佐 (2022, 4, 6). 講師. 看護研究指導, 松江赤十字病院, 松江市.

川西美佐 (2023, 10, 11). 助言者. 令和4年度広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 広島市.

川西美佐 (2023, 11, 12). 非常勤講師. 広島県立広島皆実高等学校専攻科, 広島市.

川西美佐 (2022, 11). 講師. 広島県看護協会広島中支部「組織強化研修会」, 広島県看護協会広島中支部, 広島市.

今井多樹子 (2022). 編集委員会委員. 日本看護研究学会「日本看護研究学会雑誌」.

今井多樹子 (2022). 専任査読委員. 日本看護研究学会「日本看護研究学会雑誌」.

今井多樹子 (2022). 専任査読者. 日本看護学教育学会「日本看護学教育学会誌」.

今井多樹子 (2022). 専任査読委員. 日本看護科学学会「日本看護科学会誌」.

今井多樹子 (2022). 専任査読委員. 日本質的心理学会「質的心理学研究」.

今井多樹子 (2022). 査読者. 大原記念労働科学研究所 学術誌「労働科学」

今井多樹子 (2022). 査読者. インターナショナル看護哲学研究会 論文誌「キャリアと看護研究」.

今井多樹子 (2022). 査読者(演題抄録). 第42回日本看護科学学会学術集会.

今井多樹子 (2022). 講師. 看護研究指導. 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター. 呉市.

今井多樹子 (2022). 講師. 看護研究指導. 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター附属 呉看護学校. 呉市.

今井多樹子 (2022). 講師. 看護研究指導. 独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター. 東広島市.

渡邊智恵 (2022). 災害看護専門看護師分科会委員長. 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会.

渡邊智恵 (2022). 委員. 日本看護系大学協議会.

渡邊智恵 (2022). 代議員. 日本災害看護学会.

渡邊智恵 (2022). 企画委員. 日本災害看護学会第24回年次大会.

渡邊智恵 (2022). 委員. 日本災害看護学会 ネットワーク活動委員会.

渡邊智恵（2022）. 委員 . 日本災害看護学会 用語検討委員会 .

渡邊智恵（2022）. 査読委員 . 日本災害看護学会第 24 回年次大会 .

渡邊智恵（2022）. 査読委員 . 日本災害看護学会 .

渡邊智恵（2022）. 査読委員 . 日本赤十字看護学会 .

渡邊智恵（2022）. 専門委員 . 廿日市市防災会議 .

渡邊智恵（2022）. 座長 . シンポジウム 4 複合災害への対応：新型コロナウイルス感染症と災害看護スペシャリストたち , 日本災害看護学会第 24 回年次大会 .

渡邊智恵（2022）. 講師 . 被災者心理の基礎的理解 , 社会福祉士会 災害救援活動者養成研修会 . 広島市 .

渡邊智恵（2022）. 講師 . 地域防災 , 阿品中学校 . 廿日市市 .

渡邊智恵（2022）. 災害看護学 , 横浜市立大学 , 横浜市 .

渡邊智恵（2022）. 講師 . 災害看護活動論 , 聖カタリナ大学 , 松山市 .

渡邊智恵（2022）. 講師 . 災害看護学 , 西九州大学 , 佐賀市 .

渡邊智恵（2022）. 講師 . 認定看護管理者セカンドレベル教育 , 広島県看護協会 , 広島市 .

山村美枝（2022,11,26）. 講師 . 岡山県看護研修センター教育研修 , 岡山県看護協会 , 岡山市 .

山村美枝（2022）. 専門委員 . 廿日市市福祉保健審議会児童福祉専門部会 , 廿日市市福祉保健部 , 廿日市市 .

山村美枝（2022）. 評価員 . 日本看護学教育評価機構 .

山村美枝（2022）. 理事 , 評議員 . 国際ケアリング学会 .

山村美枝（2022）. 専任査読者 . 日本小児看護学会 .

山村美枝（2022）. 専任査読委員 . 日本赤十字看護学会 .

山村美枝（2022）. 専任査読委員 . 日本小児保健協会 .

中信利恵子（2022）. 講師 . 看護科研修会 看護研究サポートプロジェクト , 広島県厚生農業共同組合 連合会広島総合病院 , 廿日市市 .

中信利恵子（2022,2）. 講師 . 令和 3 年度 日本赤十字広島看護大学公開講座 , 日本赤十字広島看護大学 , Web 開催 .

中信利恵子（2022）. 査読委員 . 高知女子大学看護学会 .

中信利恵子（2022）. 査読委員 . 日本災害看護学会 .

中信利恵子（2022）. 和文誌専任査読委員 . 日本看護科学学会 .

中信利恵子（2022,9-12）. 専任査読者 . 日本糖尿病教育・看護学会 .

中信利恵子（2022）. 評議員 . 日本慢性看護学会 .

中信利恵子（2022）. 代議員 . 日本災害看護学会 .

中信利恵子（2022,5-7）. 査読委員 , 第 42 回日本看護科学学会学術集会 .

中信利恵子（2022,5-6）. 査読委員 . 日本災害看護学会第 24 回年次大会 .

中信利恵子（2022）. メンバー . ネットワーク活動調査調整部 , 日本災害看護学会 .

中信利恵子（2022）. 代表 . SIG 災害がん看護（特別関心活動グループ）, 日本がん看護学会 .

中信利恵子（2022,1-3）. 日本赤十字国際人道研究センター研究員 , 日本赤十字学園 .

百田武司（2022）. 理事長 . 日本脳神経看護研究学会 .

百田武司（2022）. 委員長 . 日本脳神経看護研究学会社会貢献・広報委員会 .

百田武司（2022）. 会長 . 日本脳神経看護研究学会広島地方部会 .

百田武司（2022）. 委員 . 日本脳神経看護研究学会編集委員会 .

百田武司（2022）. 査読委員 . 日本脳神経看護研究学会 .

百田武司(2022). 理事. 日本ニューロサイエンス看護学会.

百田武司(2022). 社員. 一般社団法人看護系学会等社会保険連合(加盟学会: 日本ニューロサイエンス看護学会).

百田武司(2022). 査読委員. 日本ニューロサイエンス看護学会.

百田武司(2022). 理事. 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会.

百田武司(2022). 副幹事. 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会編集委員会.

百田武司(2022). 社員(代議員). 公益社団法人日本看護科学学会.

百田武司(2022). 和文誌専任査読委員. 公益社団法人日本看護科学学会.

百田武司(2022). 代議員. 一般社団法人日本老年看護学会.

百田武司(2022). 査読委員. 一般社団法人日本老年看護学会.

百田武司(2022). 代議員. 一般社団法人日本認知症ケア学会.

百田武司(2022). 副会長. 日本認知症ケア学会広島県認知症ケア専門士会.

百田武司(2022). 評議員. 一般社団法人日本看護学教育学会.

百田武司(2022). 専任査読者. 一般社団法人日本看護学教育学会.

百田武司(2022). 専任査読委員. 一般社団法人日本看護研究学会.

百田武司(2022). 代議員. 一般社団法人日本災害看護学会.

百田武司(2022). 査読委員. 一般社団法人日本災害看護学会.

百田武司(2022). 講師. JR 広島病院看護部, 広島市.

百田武司(2022). 事務局長. 第 42 回日本看護科学学会学術集会事務局・企画委員会.

百田武司(2022). 委員長. 広島市高齢者虐待防止ネットワーク事業 西区運営委員会.

百田武司(2022, 1-3) 委員. 中国・四国地方会運営委員会, 一般社団法人日本看護研究学会.

百田武司(2022, 1-3) 委員. 中国・四国地方会学術委員会, 一般社団法人日本看護研究学会.

百田武司(2022, 1-10). 保健師. 広島市会計年度任用職員(新型コロナウイルス感染症陽性者の健康相談・自宅療養者の健康観察等), 安佐南区役所厚生部地域支えあい課.

百田武司(2022, 2-3). 査読者. 日本老年看護学会第 27 回学術集会.

百田武司(2022, 3-4). 査読者. 日本看護学教育学会第 32 回学術集会.

百田武司(2022, 4). 座長. 第 47 回日本脳卒中学会学術集会 プレナリーシンポジウム脳卒中の診療とケアにかかわる人材育成 3 「脳卒中相談窓口」, Web 開催.

百田武司(2022, 5). 査読者. 日本災害看護学会第 24 回年次大会.

百田武司(2022, 5). 講師. 広島赤十字・原爆病院, 広島市.

百田武司(2022, 6-7). 査読者. 第 42 回日本看護科学学会学術集会.

百田武司(2022, 6-12) 評議員. 一般社団法人日本看護研究学会.

百田武司(2022, 6-12) 外部委員. 特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会 脳腫瘍支持療法委員会.

百田武司(2022, 8). 座長. 日本看護学教育学会第 32 回学術集会 教育セミナー 1 Web 開催.

百田武司(2022, 8-12). 委員. 第 43 回日本看護科学学会学術集会企画委員会.

百田武司(2022, 10-11). 審査員. 第 18 回認知症ケア専門士認定試験 2 次試験(論述審査員).

百田武司(2022, 10). 講師. 熊本保健科学大学認定看護師教育課程 脳卒中分野, 熊本市.

百田武司(2022, 10). 講師. 広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 広島県看護協

会，広島市。

百田武司(2022,12). 座長. 第42回日本看護科学学会学術集会, 日本看護科学学会、日本ニューロサイエンス看護学会共同企画シンポジウム, 広島市ハイブリッド開催。

水馬朋子(2022,1-12). 評議員・査読委員. 一般社会法人日本看護学教育学会。

水馬朋子(2022,1-12). 組織拡大委員長・選出理事・査読委員. 日本医学看護学教育学会。

水馬朋子(2022,1-12). 中国・四国ブロック委員. 一般社団法人全国保健師教育機関協議会。

水馬朋子(2022,1-12). 委員. 広島県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会。

水馬朋子(2022,1-12). 委員. 広島県西部地域保健対策協議会専門部会。

水馬朋子(2022,1-12). 委員. 健康たけはら21推進委員会. 竹原市保健センター, 竹原市。

水馬朋子(2022,1-12). 委員. 竹原市食育推進行動計画検討委員会. 竹原市保健センター, 竹原市。

水馬朋子(2022,1-12). 委員. 令和4年度専任教員継続研修実務者会議. 広島県看護協会, 広島市。

水馬朋子(2022,1-12). 委員. 廿日市市建築審査会, 廿日市市役所, 廿日市市。

水馬朋子(2022,1-12). 委員. 海田町地域福祉計画策定協議会。

水馬朋子(2022,6). 非常勤講師. 看護論, 広島県看護教員養成講習会, 三原市。

水馬朋子(2022,9). 非常勤講師. 看護教育課程(地域・在宅看護論), 広島県看護教員養成講習会, 三原市。

水馬朋子(2022,9-12). 非常勤講師. 公衆衛生, 呉市医師会看護専門学校, 呉市。

丸山愛子(2022,4-9). 非常勤講師. 幼児理解・教育相談, 広島大学教育学部, 東広島市。

丸山愛子(2022,11-12). 非常勤講師. 教育心理学, 広島市立大学, 広島市。

丸山愛子(2022,6). 講師. 高校内ガイダンス(看護職の職業理解のための説明会), 山陽女学園高等学校, 広島市。

丸山愛子(2022,12). 講師. 令和3年度日本赤十字広島看護大学臨床指導者研修会 教育心理, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市。

丸山愛子(2022). 委員. 廿日市市事業評価監視委員会, 廿日市市役所, 廿日市市。

丸山愛子(2022). 運営委員. 日本教師学学会第24回大会, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市。

奥村英則(2022). Okumura, H. (2022). Mathematical Reviews Reviewer. The American Mathematical Society.

勝田真由美(2022,4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市。

中村敦子(2022,1-12). 講師. 岩国市子育て推進班事業, ベビーマッサージ, 岩国市。

中村敦子(2022,1-12). 事務局, 中四国M-GTA研究会, 広島市。

中村敦子(2022,4-12). 委員, 日本私立看護系大学協会, 国際交流委員会, 千代田区。

中村敦子(2022,2-9). 企画実行委員, M-GTA研究会第6回合同研究会, 広島市。

中村敦子(2022,4-12). 専任査読者, 日本助産学会, 荒川区。

中村敦子(2022,6-12). 企画委員. 第43回日本看護科学学会学術集会, 新宿区. 千代田区。

中村敦子(2022,5-12). 機関校代表者. 公益社団法人全国助産師教育協議会, 新宿区。

中村敦子(2022,6-12). 助産師国家試験プール問題作成・登録協力員. 公益社団法人全国

助産師教育協議会，新宿区．

中村敦子（2022，4）．講師．大学生に対する性教育，日本赤十字広島看護大学，廿日市市．

中村敦子（2022，4）．選挙管理委員，一般社団法人広島県助産師会総会，広島市．

中村敦子（2022，5）．講師．公益社団法人広島県看護協会，国際助産師の日記念行事，広島市．

中村敦子（2022，7-10）．講師．高校生に対する性教育，広島県立広島商業高等学校，広島市．

中村敦子（2022，10）．講師．中学生に対する性教育，岩国市立平田中学校，岩国市．

中村敦子（2022，11）．講師．中学生に対する性教育，岩国市立川下中学校，岩国市．

山本浩子，百田武司（2022）．ハンドマッサージによる認知症高齢者の焦燥性興奮への効果（中間報告）．日本認知症ケア学会第23回大会，抄録発表．

松原みゆき（2022）．アドバイザー．広島西医療圏訪問看護推進協議会，廿日市市．

松原みゆき（2022）．委員．廿日市市保健福祉審議会健康増進専門部会，廿日市市．

松原みゆき（2022）．委員．広島県看護協会 在宅医療の人材（訪問看護師）確保のための推進事業検討委員会，広島市．

松原みゆき（2022）．委員．JA 広島総合病院 地域医療支援病院諮問委員，廿日市市．

松原みゆき（2022，5）．講師．看護部院内研修会，広島大学病院，広島市．

松原みゆき（2022，9）．2022 年度ファーストレベル教育課程 社会保障制度概論，広島大学病院，広島市．

松原みゆき（2022，10）．講師．廿日市市介護予防・生活支援員養成研修，廿日市高齢者ケアセンター，廿日市市．

松原みゆき（2022，11）．講師．ヘルスプロモーション看護学演習，聖マリア学院大学，久留米市．

服部智子（2022，4-12）．委員．日本腎不全看護学会 編集委員会．

三輪晃子（2022，4-12）．講師．看護研究サポート，広島県看護協会，廿日市市．

三輪晃子（2022，1-8）．看護師．新型コロナウイルス感染症対策に係る保健所支援，西部厚生環境事務所・保健所，廿日市市．

宗内桂（2022）．支部役員幹事（教育担当）．公益社団法人広島県看護協会廿日市支部．

宗内桂（2022）．編集委員．日本赤十字看護学会編集委員会．

宗内桂（2022，2）．座長．広島県看護協会廿日市支部看護研究発表会，Web 開催．

宗内桂（2022，5-12）．企画運営委員．看護質的統合法(KJ 法)研究会第15回研究集会．

高田洋介（2022，1-3）．健康福祉局健康危機管理課健康福祉局保健業務推進員，広島県西部保健所，廿日市市．

高田洋介（2022，3）．座長．第27回日本災害医学会総会・学術集会，広島国際会議場，広島市．

高田洋介（2022，4）．非常勤講師．国際看護学，JCHO 神戸中央病院附属看護専門学校，神戸市．

高田洋介（2022，8）．講師．国際医療協力局セミナー，国立国際医療研究センター，Web．

高田洋介（2022，10）．講師．廿日市市介護支援専門員連絡協議会研修会，廿日市市役所，廿日市市．

高田洋介（2022，10）．講師．兵庫県看護協会神戸中部支部研修，兵庫県看護協会，神戸市．

高田洋介(2022, 10). 講師. 広島県西部保健所管内保健活動連絡会議に伴う研修会, 山崎本社みんなのあいプラザ, 廿日市市.

高田洋介(2022, 12). 講師. 2022 年度国別研修「ASEAN 災害健康医療管理」, JICA 関西, Web.

高田洋介(2022). 日本赤十字国際人道研究センター研究員

高田洋介(2022). 一般社団法人日本看護系大学協議会災害連携教員

高田洋介(2022). 長野県高森町防災アドバイザー

高田洋介(2022). 国連人道問題調整事務所 UNDAC (国連災害評価調整) メンバー

高田洋介(2022). 独立行政法人国際協力機構 ASEAN 災害保健医療管理に係る地域能力強化プロジェクト国内支援委員

高田洋介(2022). 独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム登録メンバー

渡邊聡美(2022, 4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

渡邊聡美(2022, 6). 議長. 広島県看護協会通常総会, 広島県看護協会, 広島市.

竹倉晶子(2022). 委員. 廿日市市学校給食センター運営会議, 廿日市市教育委員会, 廿日市市.

竹倉晶子(2022). 査読委員. 日本赤十字看護学会.

木下真吾(2022). 社会貢献委員. 公益社団法人日本看護科学学会.

木下真吾(2022). 編集委員. 日本赤十字看護学会.

木下真吾(2022). 査読委員. 日本脳神経看護研究学会.

木下真吾(2022). 社会貢献・広報委員. 日本脳神経看護研究学会.

木下真吾(2022). 庶務担当. 日本脳神経看護研究学会.

木下真吾(2022). 企画委員. 第 42 回日本看護科学学会学術集会.

木下真吾(2022). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

木下真吾(2022, 7). 講師. 令和 4 年度看護研究サポート研修会, 広島県看護協会広島西支部.

木村幸生(2022). ボランティア. メンタルヘルス・食品衛生管理, 社会福祉法人交響, 広島市.

古賀聖典(2022, 1-3). 委員. 日本災害医学会学生部会支援委員会, 日本災害医学会.

古賀聖典(2022, 3). 講師. クラスタ発生事例を踏まえた感染防止対策等に関する研修会, 広島県, 広島市.

古賀聖典(2022, 8). 講師. 広島県看護協会災害支援ナースフォローアップ研修会, 広島県看護協会, 広島市.

古賀聖典(2022, 10). 講師. 令和 4 年度大規模地震時医療活動訓練, 厚生労働省, 名古屋市.

古賀聖典(2022, 11). 講師. 令和 4 年度中国ブロック DMAT 実働訓練, 島根県, 松江市.

古賀聖典(2022, 11). 講師. 広島県看護協会災害支援ナース実務編, 広島県看護協会, 広島市.

古賀聖典(2022, 12). 委員. 健康ひろしま 21 圏域計画推進ワーキングチーム, 広島県西部保健所, 廿日市市.

川畑貴寛(2022). 企画委員. 第 42 回日本看護科学学会学術集会.

篠原謙太(2022). 代議員. 医療安全・感染対策委員会. 日本腎不全看護学会.

篠原謙太(2022). 理事. 日本臨床腎臓病看護研究会.

篠原謙太(2022). 抄録選考委員. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会.

篠原謙太(2022).抄録選考委員.第53回日本看護学会学術集会.
篠原謙太(2022).企画委員.日本教師学学会第24回大会.
伊藤渚未(2022,1-4).保健師.広島市会計年度任用職員(新型コロナウイルス感染症陽性者の健康相談・自宅療養者の健康観察等),安佐南区役所厚生部地域支えあい課.
伊藤渚未(2022,4).講師.大学生に対する性教育,日本赤十字広島看護大学,廿日市市.
伊藤渚未(2022,8).講師.新人助産師集合研修,広島県看護協会,広島市.
伊藤渚未(2022,11).講師.中学生に対する性教育,岩国市立川下中学校,岩国市.
亀石知美(2022,7-10).講師.性教育,広島県立商業高等学校,広島市.
亀石知美(2022,10).講師.性教育,岩国市立平田中学校,岩国市.
亀石知美(2022,11).講師.性教育,岩国市立川下中学校,岩国市.
是澤あずさ(2022,4).講師.大学生に対する性教育,日本赤十字広島看護大学,廿日市市.
是澤あずさ(2022,11).講師.中学生に対する性教育,岩国市立川下中学校,岩国市.

編集:令和4年度ヒューマンケアリングセンター運営委員会

委員長:村田 由香、副委員長:水馬朋子、委員:山村美枝、中村もとゑ、宗内桂、
服部智子、亀石知美、山本泰之、住岡田和美、山本恵美子

発行:令和5年3月

日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター 広島県廿日市市阿品台東1番2号
TEL 0829-20-2806 Email human@jrchn.ac.jp